

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 27 日作成)

小委員会名	住宅需給構造小委員会	主 査 名：伊藤史子 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：古阪秀三 主 査 名：伊藤史子
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・設置目的：1. 本小委員会は、需給バランスを中心とした社会・経済的側面から住宅のあり方について追求し、住まい手（需要）の変化に応じた住宅供給やその政策に関する研究を行う。</p> <p>・2. 住まい手側の変化(単位、構成、意識等)にともなう住要求(立地・住戸形態・広さ・室構成・設備等)の変化実態や、市場での住宅供給(ストック市場を含む)の動向との関係を解析し、これらへ対応する住宅政策の在り方を検討する。</p> <p>・07 年度活動計画：今年度は、住宅需要面では女性のライフスタイル変化に焦点を当てた分析を行い、住宅供給面では住宅・住宅地供給事例の時代変化との関連に焦点を当てた検討を行う。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 伊藤 史子(首都大学東京、主査)、藤岡 泰寛(横浜国立大学、幹事)、松本 真澄(首都大学東京、幹事)、加納 国雄(日本不動産研究所)、木内 望(国土交通省国土技術政策総合研究所)、橘田 洋子(Citrus)、志岐 祐一((株)日東設計事務所)、瀬川 祥子(UFJ 総合研究所)、田中 勝(山梨大学)、生田目 裕(東京都宅地建物取引業協会)、米野 史健(大阪市立大)、吉川 徹(首都大学東京)、頼 あゆみ(国土交通省)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2008 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keizai/jj/">http://news-sv.aij.or.jp/keizai/jj/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1.住宅需要に関しては、居住サービスに関する女性の消費動向パネルデータの分析により共同研究を進め、一定の成果を得た。 2.住宅供給に関しては、特徴的な事例の調査や住宅供給に関する委員報告をもとに議論を重ね、住宅供給に関する情報を蓄積した。 (以上、欄内末尾の成果参照) &lt;研究成果等&gt; ・藤岡・伊藤・杉谷(2008)「DEWKS 女性の就業特性と居住特性の変容過程」『日本建築学会技術報告集』 ・伊藤・藤岡(2008)『女性のライフスタイルと居住地選択や住まい方の関連性に見る住宅需要の多様化の分析』文科省科研費(基盤C)報告書。 ・吉川・伊藤・他(2008)『コンパクトシティ再考』、玉川英則編、学芸出版。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1.旅費や時間的制約により遠方の委員の参加が難しい状況にあり、当小委員会の特徴である産官学バランスのとれたメンバーの多数参加による総合的な議論を深めることが十分にできなかった。建築会館と結んだTV会議システムの導入等が検討課題である。 2.今年度は研究テーマサブグループの各拠点における会議開催を試みた。今後はWG化の検討が課題である。</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。